

EX.VIEW



素敵なエクステリアライフの優れたプレゼンターに!

質の高い情報交換を相互に深め 顧客に満足を届ける その提案力をいっそう高めよう!



エクステリア建材事業本部長
永田 等

去年は、世界はあの衝撃的なWTC2001・9・11の余燼が消えぬままにテロや地域紛争に明け暮れる暗い一年でありました。

産業・経済は、東北・東南アジア、特に今や世界の工場として目覚しく台頭しつつある中国や、ワールドカップを日韓共催し、E・T化を一気に推進・レベルアップしつつある韓国の躍進に押されたこともあってか、国内景気はバブル崩壊後に始まったデフレスパイラルがなにより加速・加重された感じが否めません。

こうした国内外情勢の中で各企業は、その規模の大小・業種の別を問わず、それぞれがサバイバル・リバイバルの為、必死果敢にリストラクチャリングを実行してきました。

また、それに伴う痛みを分かち合い、緩らげるために、たとえばワークシェアリングを実施するなど、セーフティネットの構築にも、それぞれ腐心してきました。

その結果辛うじて一部に数字の改善がみられますが、実態経済は依然として不良債権問題解決の糸口が見出せないまま、設備投資・消費も低迷・・・いつになったら底を打つのか? 株価も低迷し、「不況」は極めて憂慮すべき状況といわざるを得ません。

去年のそうした暗い雰囲気を吹き飛ばしてくれたのがノーベル賞受賞でした。一昨年に続く連続受賞、しかも小柴・田中両氏のダブル受賞でした。殊に、島津製作所の田中耕一さんはスーツとネクタイよりは作業服ジャンパーが似合う一介のサラリーマンエンジニア! これは百年近いノーベル賞の権威ある歴史で、初めてのことでした。田中耕一さんは、巧まずして滲み出るあのユーモアあふれる純朴・謙讓な性格と相まって「日本人ここにあり」「日本企業も捨てたも

のじゃない」と日本全土に元気を与えてくれました。

いずれも、目標に向かって日常不断、地道な研鑽と努力を積み重ねられた結果であり、また、安易にマンネリに墮することなく常に独創・創造を心がけられた結果の受賞でした。それが根底にあったればこそ、偶然の女神までもが、サポートしてくれたのでした。

昨年、私どもエクステリア業界も、流通の方々と一緒に不用意な返品削減運動を展開し、また安心・安全等・・・エクステリアに求められるユーザーの重要関心事、新建築基準法に基づく風強度の表現方法等の検討研究を行ってまいりました。そうして一定の成果が得られたことはご承知のとおりであります。紙上ながら、関係各位に厚く御礼申し上げます。

さて、総理府広報室「国民生活に関する世論調査」“消費者の生活感覚の移り変わり”による国民志向として、衣食や耐久消費財への出費が減少している一方で、住生活に対してはほぼ横ばい、レジャーや余暇に対しては上昇しているとの報告がなされています。

これは、人々の住環境改善への要望はいつの時代も変わらないことの表れです。特に、エクステリアは住環境のなかでもっとも身近なアウトドアライフとして、これから益々注目される分野であり、住環境に「安らぎ・潤い・ゆとり」「安心」「リフレッシュ」を与えることが出来る二十一世紀型住宅産業のひとつそれがエクステリアであります。



いま、否応なく進む社会の少子高齢化は、新しいライフスタイル・きめこまかな多様な価値の創造と共生共存を、時代のニーズ・時代のキーワードとしています。

その一方、大量・高速・均一・低コストのものづくりを横並びで目指してきた産業経済が今や成熟段階に達し、サバイバル・リバイバルへ向けて、個性化・差別化が強く求められています。

私どもは、こうした時代のニーズとインセンティブに敏感・誠実なセンスを磨きスタンスを固め、流通・施工に携わる皆様と共に、生活者の要求を第一に取り組んでいきたいと考えております。

私共はこれまで以上に、皆様方との情報交換を深く積極的に行い、その過程を通してより一層充実した商材を開発提案していきたいと思っております。

また、ただモノを売るのではなく、営業員、開発員の一人一人が、「お客様の目線で考えて提言する」という姿勢を重んじ、お客様に精神的・質的満足感をご提供することで、皆様方のお役に立ちたいと願っております。

三協アルミでは、多様化・個性化を求める時代のニーズ、少子・高齢化が進む社会の構造変化を敏感・誠実に捉え、セキュリティ、バリアフリー商材や、新世代向けの個性豊かでスタイリッシュな新商品等を新しいライフスタイルとともにご提案・提供する所存であります。

二十一世紀の三年目を迎えるにあたり、「素敵なエクステリアライフの優れたプレゼンターでありたい!」

これを結びいたします。

I N D E X

- 本部長メッセージ.....1~2
- 設計ノート.....3~6
- エクステリアと快適省エネ.....7~8
- リュック流ガーデン講座.....9~10
- 御庭会通信.....裏表紙
- 御庭番スタッフ紹介.....裏表紙

表紙:村西恵津氏/イラストレーター・デザイナー
インテリア・生活小物デザイン等幅広く制作活動
...2000年九州・沖縄サミットでは、公式贈答品
となった扇子の挿し絵を手がける。



U様邸 コンベで選ばれた作品。Uスタイルの広がり感と、南欧風にまとめたアプローチの組み合わせが評価された。



先々、庭を変える時のことを考え、レンガのベンチを小さくつくっている。



Uスタイルが二つのゾーンをひとつの空間イメージにまとめている。

職人気質の良心的な仕事で自慢 「自分の家の庭」をつくる気持ちで取り組んでいます



主任 国本 剛様

当社は、左官・外構職人として40年以上のキャリアを持つ父と、5年ほど他所で修行を積んだ私とで、7年前に創業しました。現在社員は4名。営業は1名で女性です。業務は左官・外構・造園などエクステリア全般の設計施工で、ほとんどが下請けでなく、エンドユーザー様から直に受けています。ですから、とにかくお客様の話をよく聞いて、限られた予算内で要望をできるだけ反映させる……ということ、まず一番心がけています。気持ちとしては、すべての物件について、「自分の家の庭をつくっている」つもりで取り組むようにしています。そうすると、自分自身も楽しんでプランニングできますから。

打ち合わせは、最初にお客様の要望を聞いて、次回からは図面を持っていきます。図面は手描きで、相談中も変更が出れば、その場でどどんフリーハンドで描いて「こんなイメージ?」という風に話を進めていきます。父も自分も職人で、現場をよく知っているのも、「レンガの数センチの納まり」といった話もできるし、工事中に変更が出た時などもすばやく対応しています。

最近のお客様は、商品知識も豊富で、外国のきれいな庭などの情報もたくさん持っていらしゃいますね。お客様と話していると、こちらにも刺激になりますし、もっと勉強なくてはと思う毎日です。

父は頑固一徹の職人で、「恥のない工事をしたい」と、表か

ら見えない基礎にこだわり、仕上がりに非常に厳しい人です。私もそんな父の背中を見て育ったせいか、やっぱりきちんとした仕事をしないと気がすみません。ですからなかなか儲からないんですが(笑)、いい仕事をするお客様との信頼関係を長く築いていきたいと思っています。10年、20年と時間が経つにつれてますます良さが感じられるようなエクステリアをつくっていききたい、というのが当社の理想です。

設計のポイント

U様邸

8~10業者によるコンペでしたが、シンプルなプランが多いなか、当社では他にはないユニークなデザインを提案。それが採用の決め手になったようです。

やさしい曲線を描く南欧風の低い塀を設け、レンガを要所所にあしらって暖かい感じを演出。カーポートと門扉がフロントを美しく引きしめています。とくにカーポートは、従来の製品だと、玄関ドアのまん前に柱が来てしまうのですが、Uスタイルを採用したため、柱の位置を逃がすことができ、アプローチの動線がスムーズに。シンプルなデザインが、柔らかい土壁の雰囲気とも調和して、お客様も非常に満足してくださいました。

庭にはレンガ製のベンチを設置。後年、たとえば「ベジタブルガーデンにしたい」と思ったら簡単に外せるように、ベンチは小さくつくっております。そういったフレキシブルなプランを、いつも心がけています。

H様邸

なだらかな曲線の塀と、アプローチの階段脇につくられた小さな花壇がアクセント。お施主様が調教師なので、馬のレリーフをあしらって、遊び心のあるエクステリアが完成しました。

カーポートはやさしく軽快なイメージでまとめています。庭にはこれから池と砂場をつくる予定です。



H様邸 背景に映える明るいイメージにまとめている。



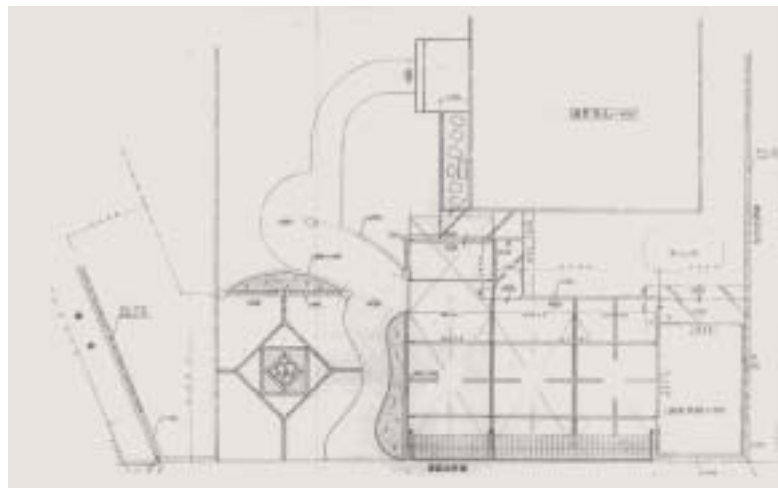
遊びのある変化豊かな外観が楽しい街並みをつくっている。



A様邸 ダイナミックなUスタイルの空間が創出され住宅外観とマッチしている。



広大なスペースのプランであり、ゾーンごとにテーマをもたせ、メリハリのある構成で楽しませている。



アンティークストーンや上海レンガなど、本物素材にこだわって年が経つほどに味わいの増すエクステリアを提案



代表取締役
中野幸次郎様

当社は創業10年目。9割以上がエンドユーザーとのダイレクトな仕事ですから、お客様の声をじかに聞くことができますし、中間マージンがかからない分、お客様の予算をめいっぱい活かせるのが強みですね。スタッフは私を含め男性が3名女性が6名で、プランナー・デザイナー・CADオペレーターの3部門により、お客様への提案を作り上げています。お客様にイメージをふくらませていただくために、今までに1000件を超える施工実績の写真と私達の知識、情報を織り交ぜながら、何度も話し合いをし、修正を重ね、お客様が納得されるものに仕上げていきます。最近のお客様は、素材やディテールにこだわる方が増えていますね。なので当社では、メーカー品にはないオリジナル素材も揃えています。とくに石材は30~40種類を集め、中にはヨーロッパで実際に敷石に使われていたアンティークストーンや、万里の長城の補修用の上海レンガといった珍しいものもあります。エクステリアは完成してから何十年もつきあうもの。一般的なコンクリート仕上げよりも、本物の素材を使うと、古びるにつれて深い味わいが出てきます。ですからお客様にも、長い目でみた素材選びをおすすめしています。「アフターサービス」という言葉はわざわざ使いません。今まで関わりのあったお客様には、近くを通ったときに「どうですか?」と声をかけ、補修やメンテナンスもしてきます。新しいお客様は口コミが多いのですが、それもこういうお付き合いの賜物かもしれません。オフィスには『街のお庭屋さん』という看板を出しています。その名の通り、藤枝の街の人々に親しまれる庭屋をめざしています。

設計のポイント

A様邸

600坪という広大な敷地。広すぎてプランが難しかったです。景観が間延びしないように、ゾーンごとにテーマをもたせ、メリハリのあるエクステリアを心がけました。アプローチは、曲がりくねった道と塀でワクワクするような出会いを演出。床は天然石の乱張り、塀は塗り壁で、暖かくやさしいイメージに。夜はライトがともり、また違う雰囲気になります。3台の駐車可能な大型カーポートはUスタイルを採用。シンプルでダイナミックなデザインが、エクステリア全体とうまく調和しています。屋根つたいにいけば、玄関まで濡れずに入れます。和室の前には、和風庭園コーナーを設け、和室の中からも庭を觀賞できるようにしました。また、白やきね、火鉢などの骨董品を利用して、庭にアクセントをつけています。

K様邸

住まいを全面建て替えられたK様邸。ご夫婦で数十年前に手づくりしたレンガの門は残したいというご希望だったため、その雰囲気に合わせた石材を選択しました。リビング前のデッキには上海レンガを使用。シックな色と素朴な風合いにお客様も満足されています。



K様邸 オリジナリティ豊かなフロントが楽しい街並み景観を提供している。左手前は、長くなじんでこられた門構えを残したもの。

2003年エクステリア商品展示会のご案内

時代を先取りする「提案力ある三協アルミ」として、新たなビジネスチャンスとサクセスストーリーをご紹介します。

3つの感覚をご紹介します

テーマゾーン
新時代・新世代の「新」感覚
ライフスタイルに対応した

提案セミナー
商品の受注獲得に向けた「信」感覚
ポイント

カタログ&ITコーナー
ユーザー様との「親」感覚
コミュニケーション強化策



会場のご案内

静岡会場：4月 5日(土) 午前10時~午後5時30分
ツインメッセ静岡北館 静岡市曲金3-1-10

大阪会場：4月11日(金) 午前10時~午後5時30分
インテックス大阪1号館 大阪市住之江区南港北1-5-102

東京会場：4月17日(木) 午前10時~午後5時30分
東京ビッグサイト西2ホール 東京都江東区有明3-21-1

名古屋会場：4月22日(火) 午前10時~午後5時30分
名古屋吹上ホール 名古屋市中種区吹上2-6-3

笈川 洋昭 OIKAWA HIROAKI
梅花短期大学講師

一級建築士事務所DAD's計画工房主宰

遊び心と実利を創出する環境共生・エコロジー設計

住まいのデザインにおいても「環境共生」「エコロジー」は、いま、重要なキーワードです。

多くの設計者や技術者たちは「光・風・水・土・草樹木」など、自然の力や生態を利用する」という新しいデザインのキーワードを得て、創造意欲をかきたてています。

ソーラーパネルをデザインモチーフとしたファサード(屋根や壁面などへの取り込み)、さらには二重格子をファサードに付けて庇の効果を狙った建物など、いくつもの例を見ることができます。

1970年代、住宅地開発・都市再開発など都市計画の分野では「自然との調和・環境との共生」はすでに大きなテーマとなっていました。80年代に入り、それまで特定地域だけの問題だった環境汚染・公害などは、資源の枯渇、生態系の破壊、オゾン層の破壊・温暖化による異常気象など地球全体の問題としてとりあげられるようになりました。

21世紀のいま、京都議定書で論議されているように、CO₂問題などは取り組まなければならない最重要課題となっています。

国としても地球環境を守る観点から、住み手が関わりながらつくる「環境共生住宅」の普及をはかり、補助制度を設けていくつかのモデル事業も進めています。ここでは、省資源・省エネルギー、自然エネルギーの活用により地球環境の保全について、適切な配慮がなされていること(Low Impact)

自然環境、地域社会等の周辺環境との調和について、適切な配慮がなされていること(High Contact)

住居内の居住環境、健康性、快適性等の実現について適切な配慮がなされていること(Health & Amenity).....以上の3つの要件を満たすことを掲げています。

具体的なイメージとして、太陽光発電装置、吹き抜きからの採光、住宅内外の通風、屋上緑化、雨水排水の再利用、土の庭、菜園、植栽、植樹(落葉樹)など、ごく身近な道具立てで省エネルギーや環境との共生を図り、地球環境に貢献しようということです。



屋上緑化でエコロジーを実践する「未知草」

環境共生住宅

省資源 省エネ
自然の活用

自然や社会など
周辺環境との調和

居住環境 健康
快適性などの配慮

おそらく「環境に優しい住まいを設計してください」と注文をつける人は、かなり限られると思います。環境の大切さは誰も分かってはいるながら、現実にはコストや利便性を優先させるのがふつうです。

ところが、「エコロジー」が、住まいを設計しつくる側にとっても、また住まう側にとっても有効なキーワードであるのは、それが双方ともに「得」になるテーマだからです。

私たち設計に携わる者にとっては、環境という新しい切り口を得ることでデザインのヴォキャブラリーが増え、さらに新たな発見へつながっていくという楽しさがあります。

たとえば、屋上緑化は多くの設計者たちのモチーフとして創意を刺激しています。それは、景観はもちろん、断熱効果や植物の蒸散作用による冷却効果がヒートアイランド化を抑



南面の植栽は、太陽光を吸収し、反射光だけでなく輻射熱も抑えるので、大きな省エネ効果があります。

えるなど、自然・環境・社会に貢献することもあります。なによりも天高く拓けた場所で、楽しく、親しみやすい空間を創ることに遊び心のイメージが膨らみます。

屋上をピオトープにしたり、畑にしたり、散歩道にまでした建物もあります。エコロジー=風土によって培われた住まいの知恵を再発見し、これをデザインに取り入れようと萱葺き屋根の上にニラを植えた、遊び心にあふれた家もあります。

また「冷暖房費が安くなる...狭い場所でも緑豊かな庭がもてる...天窓のあるダイナミックな居間空間を実現できる」、そして「ほんの少し世間に気を遣うと快適な街並みになる」など、住まう側にもメリットをもたらします。だから環境、省資源・省エネルギーは商品価値を持つのです。

屋根から地上に目を向けると、エクステリアの設計についても、植栽の種類や配置をはじめ、機能や価格が優先されがちなサンデッキ、バルコニー、パーゴラ、塀・さらには門扉・駐車場にまで、エコロジーという新たな視点を加えることで、実利を得ながら徐々に遊び心を膨らませる可能性があるように思えます。

徒然草に「住まいは夏を旨とすべし」という一節があります。湿気の多い日本の風土を考えれば、住まいは、風通しよく、夏に快適に過ごせるようにつくる方が、暮らしやすいという先人の知恵が表された言葉です。住まいづくりとは、人が心地よく暮らすための「知恵」が凝縮されたひとつの「文化」です。

「環境共生」と「エコロジー」というキーワードも、「地球環境を守ることによって自らの生命を守る」ことはもちろん、「快適な住環境や都市環境を得る」ことや「経済性を高める」といった現代の人々の「知恵」「願い」が結実した価値観であり文化なのです。

リュック流ガーデン講座一2 「色」を楽しむ

日本ガーデン界草分けのペイザジスト(景観設計家)グロッセ・リュックさんの好評ガーデン講座。第2話は「色」についてのお話です。色がよぼす心理的な効果や、美しい組み合わせ方のテクニックを教えてくださいました。



カラフルなフラワーガーデンの歴史は、意外に浅いのです。フランス・ヴィランドリー城の、幾何学模様に入り込まれた刺しゅう花壇。色のついた部分は、以前は色砂が使われていました。19世紀の終わりごろから一年草の品種改良が進み、色とりどりの草花を豊富に植えられるようになってきたのです。

色の効果を考え、目的に合わせて使いこなす

色は、光がなくては見えません。色には光のエネルギーがあります。それが私たちの身体や心に働きかけ、さまざまに作用します。「色」は、人の感情や心地よさを左右する重要な要素のひとつなのです。赤ん坊が最初に識別する色は「緑」だといわれています。森や野原を散歩したり、庭いじりをすると気持ちがあがむのは、この緑という色にも関係してい

るのです。ほかの色にも、それぞれの効果があります。たとえば青は沈静、赤はエネルギー、黄色は喜び……というように。ですから、目的に応じて色を上手に使い分ければ、心を癒したり、落ち着けたり、元気にしたりするガーデンをつくることもできます。



グロッセ・リュック氏

1951年ベルギー、ブリュッセル生まれ。ペイザジスト(景観設計家)。ベルギーのマリモン・エコール・シュペリール造園学科卒業。フランスとベルギーにて造園設計・施工・監理業務から大使館の庭師を経て1987年来日。現在、(有)みどりのゆび取締役設計部長。岩手県と埼玉県を拠点にリュック流ガーデンのデザイン・施工・オブジェデザイン分野で活躍中。著書「ガーデンデザイン」(コスモヒルズ刊)



3色のカラコエを使って、カラフルな水があふれるように演出したガーデン。デザインに動きとストーリー性がある楽しめず。

葉の緑をベースに、宿根草+花木で

それでは、リュック流カラーコーディネーションをご紹介します。

ベースはあくまでも緑です。花の色の美しさは、葉の緑があつてこそ。緑がちょうど「スクリーン」役になって、花の色を引き立てるのです。それに、ひと口に緑といっても、葉の色は千差万別です。華やかな色あいのカラーリーフもありますし、形や質感もそれぞれ違いますから、葉だけでも巧みに組み合わせれば十分に美しいのです。

一面ベタッと一年草の花で埋めるガーデンは、好みではありません。宿根草や花木などを中心に、葉をベースにしたガーデンをつくり、2月はここに花が咲く、3月はここ、というふうに、季節ごとにさく花を楽しむ。そのほうが空間に「動き」が生まれ、変化に富んだガーデンになります。

もちろん、お客様の希望をいれて、部分的に一年

草を植えるスペースを何カ所かつくる場合もあります。その場合も、視覚的な変化を考えて、大きな場所をひとつ取るよりも、なるべく何カ所かに分散させるようにします。そうすれば、その部分だけは季節ごとに一年草を植え替えられますから、その時の好みや気分によって花の色や種類が選べます。こうすることで、お客さまにガーデニングに親しんでもらおうという狙いもあります。

私がつくる宿根草と花木がベースのガーデンは、花期が一定時期に限られず、剪定にある程度の技術を要するものがありますので、私は基本的に、お客様のご要望があれば、庭が完成したあとも定期的に管理をします。庭というのは成長するもので、つくりっぱなしではいい庭にはなりませんから。ただ日本では、メンテナンスにお金を出す発想がなかなか残念です。庭は、完成してからが本当の始まりなのに…。



園芸療法の行われているガーデン。300種以上の植物が植えられています。オレンジ~黄色といった暖色系の花々と、あふれる緑のなかで過ごす、心身が癒され、明るくリラックスした気分になれます。

色を組み合わせるテクニック

先ほど「色が人間にさまざまな効果をおよぼす」ということにふれましたが、それを実際にガーデンに応用してみましょう。

たとえば、狭い庭を広く見せるなら、奥行きを感じさせる青い花を多くします。逆に赤い色を使うと狭苦しく感じてしまいます。黄色は弱視の人にも見える色なので、視力の弱い人やお年寄りには黄色系の花を使って楽しんでもらいましょう。夕暮れ後は赤い色は見えにくいので、日中留守がちの人の庭は黄色や白い花を多くするとよいでしょう。

色の組み合わせ方も、いろいろなテクニックがあります。強い色同士を組み合わせるときは、間に白い花をはさむとやさしいイメージになり、まとまりやす

くなります。狭い庭には、さまざまな色を混ぜ込んでもいいのですが、広い庭では単色をある程度のかたまりで使っていけないと、全体がぼけてしまう場合があります。また時には、塀や花台、ゲートなどに思いきったアクセントカラーを用いると、植物の色がさらに引き立ち、コントラストのある庭が完成します。

いずれにしても、ただ一年草を植えて、季節がすぎたら植え替える、というカラーコーディネートではなく、さまざまな葉の色をベースに、宿根草、花木、球根を自然に取り込んだなかで色彩計画をするのが、「リュック流ガーデン」なのです。



カラーリーフを組み合わせ暖色系にコーディネートしたガーデン。そこに寒色系のブルーをあしらうことでコントラストが生じ、植物の色がさらに鮮やかに際立っています。塀や花台、ゲートなどに、こういう思いきった色をアクセントとして用いるのがリュック流。



いろいろな色・形状の葉を組み合わせたガーデン。白や銀色の葉をあしらうことで、涼しげで爽やかなイメージに。



明るいイエローの花が咲き乱れるガーデン。弱視の方がここを訪れたとき、「黄色が気持ちいい」ととても喜んだとのこと。

おにわかい つうしん

御庭会通信



図面の講評をする金井先生

中国御庭会 研修会 10月22日 アークホテル広島
会員様からのスーパー御庭番に関する質問に直接お答えするため、御庭番の個別研修会が実施された。また研修会の後には、金井貫太郎氏を講師にお迎えしての講演会が実施された。講演会では、プランニングを行う際に必要な理論についての説明があり、さらに会員様が作成した図面に対して具体的なアドバイスをされた。



梅小路公園を見学

東海御庭会 秋の研修旅行 11月7・8日 京都
東海御庭会では、“古きを訪ね新しきを知る”をコンセプトに、京都の梅小路公園や竜安寺、ガーデンミュージアム比叡などを見学する研修旅行が実施された。

群馬御庭会 総会 12月5日 前橋東急イン
群馬御庭会では総会が開催され、今回より3社が新たな会員として参加されることになった。総会の後、スーパー御庭番のVER4.5の説明と、秋の商品の概要説明が行われた。



山本先生の講演風景

四国御庭会 経営セミナー 12月11日 ホテル マックスビジョン
四国御庭会では会員様向けの経営セミナーとして、(株)バルグリーンの山本康生氏を講師に迎えての講演会が実施された。講演会では、社内で情報を共有化して経営効率をアップさせるための具体的な手法を説明された。

おにわばん
御庭番スタッフ紹介

愛媛県宇和島市 有限会社 酒井スレートブロック工業所
あうとてり家さかい様

「10年前より格段に使いやすくなりましたね。
簡単にきれいに描けるので、業務が効率よく進みます」



代表取締役 酒井憲治様

私は以前に三協アルミに勤務しておりましたので、御庭番は10年前から使っていました。ごく初期の御庭番はバックアップ機能がなく、せっかく描いた図面が一瞬でパアになる...なんてこともありましたっけ(苦笑)。

94年に退社して、四国の実家の外構・造園業を継ぎ、それから4年後に御庭番を導入しました。少し期間があきましたが、基本的な操作は一緒だったので戸惑いはありませんでしたし、バックアップ機能もつき、操作も格段に簡単になっていたのはうれしかったですね。

現在、会社は自分1人で営業から設計まですべてこなし、施工は現場スタッフを使いながら行うというシステムです。ですから、身体がいくつあっても足りないほど忙しい毎日ですが、このスーパー御庭番があると作図の時間が大幅に短縮され、業務が効率よく進みますね。それに、線が均一ですから、きれいなプレゼンテーションができます。

今はとにかく忙しくて、休日もなかなか十分に取れない状態ですが、ほとんどがお施主さんと直の仕事なので、直接会話ができますし、お客さまから学ぶことも多く、やり甲斐があります。たまの休日はほとんど子どもと遊んでいますね。それが一番のストレス解消になります。

三協アルミ

〒933-8610 富山県高岡市早川70 三協アルミニウム工業株式会社
エクステリア建材事業本部 EX.VIEW編集室
TEL0766 20 2261 FAX0766 20 2071
ホームページアドレス <http://www.exteriorworld.jp/>